

愛媛県宇和島市沿岸から得られたササムロ

清水孝昭¹・渡邊昭生¹¹ 愛媛県農林水産研究所水産研究センター写真1 *Caesio caerulaurea* ササムロ (TKPM-P 24153)

種の記録

Caesionidae タカサゴ科

Caesio caerulaurea Lacepède, 1801 ササムロ(写真1)

標本 徳島県立博物館魚類標本(TKPM-P)24153.

採集年月日:2024年1月12日. 採集場所:愛媛県宇和島市下波 水産研究センター地先(33.16975N, 132.43825E). 標準体長 76.2 mm, 体高 22.9 mm.

種の特徴

体は側扁して長い。標準体長は体高の 3.3 倍。尾鰭は深く二分する。背鰭基底は長い。眼に脂腺がある。体背部は暗青色、体側は輝青色で、腹部は赤味を帯びた白色。側線より上方に黄色縦帯がある(死後消失)。背鰭は暗色で、臀鰭は朱色味を帯びた白色。尾鰭上、下葉の中央に暗色帯があり、上、下葉の縁辺は朱色に縁どられる。前上顎骨の後方突起は 1 個。背鰭 10 棘 14 軟条、臀鰭 3 棘 12 軟条、胸鰭 20 軟条。

備考

個体は筏に設置した小割網内に侵入しており、網を引き上げる際に採集された。標本の上記特徴は島田(2013)のササムロに一致し、松沼ほか(2021)の標準和名のないタカサゴ科クマササハナムロ属 2 種とも尾鰭の斑紋等で区別できるため、本種と同定した。日本において本種は小笠原諸島、相模湾～鹿児島県坊ノ津の太平洋沿岸、屋久島、琉球列島に分布し、相模

湾～鹿児島県坊ノ津の太平洋沿岸では少ないとされる(島田, 2013)。愛媛県では宇和海南部に位置する愛南町の深浦漁港で 2007 年に水揚げされた写真があるが(高木ほか, 2010)、これより北部では記録がない(辻・平松, 1987)。本報告は登録標本に基づくものとしては愛媛県並びに宇和海初記録である。

引用文献

- 松沼瑞樹・高久 至・本村浩之. 2021. 屋久島で撮影された日本および琉球列島初記録を含む大隅諸島初記録の魚類 8 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 14: 43–47.
- 島田和彦. 2013. タカサゴ科. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版, 東海大学出版会, 秦野. 931–933, 2004–2005.
- 高木基裕・平田智法・平田しおり・中田 親. 2010. えひめ愛南お魚図鑑. 愛南町, 愛媛. 250p.
- 辻 幸一・平松 亘. 1987. 宇和海産魚類目録-II. 南予生物, 2:1–15.

(2024年2月6日受付, 2024年2月8日公開)

連絡先: 清水孝昭 (e-mail: simizu-t@sky.hi-ho.ne.jp)
(Takaaki Shimizu and Akio Watanabe. 2024. Record of *Caesio caerulaurea* (Caesionidae) from Uwa Sea, Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 24004)